

この通信は、部会の様子をお伝えし、関連する機関のみなさまとの情報共有をめざして発行しています。



平成 28 年 12 月 21 日 **世田谷区自立支援協議会地域移行部会**を開催しました！

区内外から 43 名とたくさんの方に参加していただきました。ありがとうございました。

* この地域移行部会は、毎回テーマを設け、精神科病院に入院している方の地域移行に向けた支援の在り方や課題について検討しています。



*** 今回のテーマ ***

「病院で取り組んでいる地域移行～地域移行でできる連携とは～」

今回の部会では、井之頭病院 岡さん(看護科長)と昭和大学附属烏山病院 長谷川さん(精神保健福祉室 室長)のおふたりから、各病院での地域移行に関する取り組みをご紹介いただき、その後ご報告をうけて、今後の「病院と地域の連携について」意見交換を行いました。



病院で取り組んでいる地域移行

【「地域移行病棟での取り組み」井之頭病院 岡さん】(当日資料一部抜粋及び改編)

退院を進めていきたいけど・・・ ・自分が地域生活でどうやって暮らしていくのかイメージがわからないみたい・・・。

援助者も地域生活を知らなければ始まらない！ ・地域の資源についてはスタッフの知識に個人差がある。

地域とつながる病棟を目指す ・地域の支援者が入りやすい病棟づくり
・ピアサポーターの活用(病棟 SST に月 1 回来ていただく)
・スタッフが地域に出る機会の確保

ピア活動のねらい ・地域生活のイメージを作る。
・実際に生活している回復者の姿を見ることで地域生活に希望を見出す。
・当事者同士での関わりを自身の回復の資源として考える。



病棟 SST でピアサポーターと行ったこと

- ・ライフヒストリーの発表: 病気を抱えながらどんな生活をしているのか。
- ・社会資源の紹介: グループホームの部屋の写真を見せてくれたり、作業所の様子等を紹介。
- ・ミーティング: 患者さんの悩みをみんなで話し合う。
- ・見学・体験: グループホーム・地域生活支援センター・作業所見学。
- ・個別支援: SST をきっかけに個別の外出支援など。

入院されているご本人からの質問 ・長期入院でも退院できますか? ・困った時はどこに連絡しているの?

- ・自分でも働けますか? ・作業所の収入は? 食事は? 作業の内容は? やりがいはありますか?
- ・どんな家に住んでいますか? ・1 か月にいくら必要? ・何をして 1 日過ごしていますか?

やってみた感想

入院されているご本人より: ・作業所や生活支援センターの情報を知ることができた。行ってみたいと思った。
・体験談が良かった。自分と同じような人がいると励まされるし、参考になる。
・不安があっても退院できるんだと思った。

職員の方より: ・職員が言うのと同じことでもピアの方からだと響きが違う。
・患者の意外な一面を見ることができた。職員の刺激にもなっている。

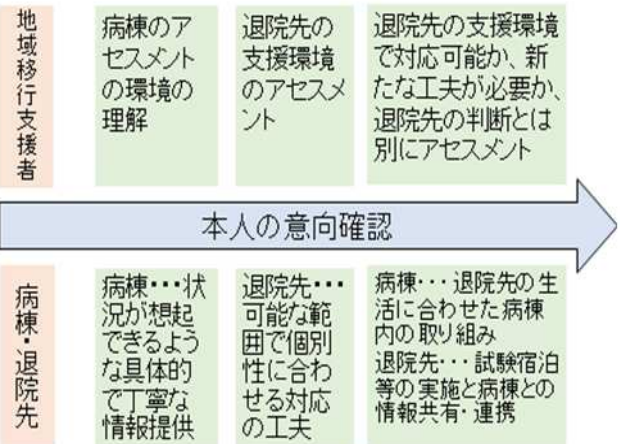
「病院で取り組んでいる地域移行～地域移行でできる連携とは～」

昭和大学附属烏山病院 長谷川さん】(当日資料一部抜粋)

昭和大学附属烏山病院と 地域移行支援システムの連携

	地域移行支援事業	被保護者精神障害者地域生活移行事業	精神障害者地域移行体制整備支援事業
精神科救急病棟	-	-	-
亜急性期病棟 *アルコール依存症治療病棟含む	個別介入	個別介入	プログラム講義
リハビリテーション病棟	個別介入 ピア個別介入	個別介入	ピア活動 (グループワーク)
急性期病棟 (特別病棟) *アルコール依存症治療病棟含む	個別介入	-	-
認知症治療病棟	-	-	-

地域移行支援者と 関係機関の役割と連携



昭和大学附属烏山病院での MOTA(地域生活支援センター)のピア活動 (MOTA スタッフより)

平成 28 年 8 月から月 1 回、入院の方とピア相談員との交流会を始め、毎回テーマを決め話し合っている。その中で、退院後のイメージが少なく、それが不安ということも分かってきた。「退院後、自分の面倒を見てくれる人がいない」という言葉も、「心の支えが欲しい」という気持ちであることがわかった。今後も続けていけたらと思う。

グループワーク「病院と地域との連携について」の意見交換 (抜粋)

【ピアサポーター・ピア活動について】

- ・ピアサポーターの重要性を知った。
- ・ピア活動の財源的な裏づけや活躍できる環境が必要。
- ・ピアサポーターが活動中に体調が悪くなった時の対応は？
- ・ピア体験そのものが大切だと思う。
- ・ピアの方の力が大きい。スタッフだけでは見つけられなかった視野や発見がたくさんある。

【支援者・関係機関について】

- ・顔の見える関係の大切さを感じた。
- ・それぞれの関係機関で話がつながらない時もある。
- ・制度や事業所を院内の職員が知る必要がある。病院内での連携が必要か。
- ・感染症のこともあり、病院によっては外部の人間を入れることに慎重になっているところもある。
- ・それぞれの立場、役割をちょっと超えて支援するリンクを作ることが大切。

【制度について】

- ・病院から地域生活の間に体験を積むための中間サービスや中間施設が増えると良い。
- ・世田谷区に住んでいて、世田谷区のグループホームに入れない場合がある。
- ・はじめに制度ありきだと、がんじがらめになる。制度や障害にとらわれず、その人の「生きづらさ」に焦点を当てることが大切。
- ・事業名が複雑で、利用者にも説明ができない。

【その他】

- ・退院にあたっては家族の協力が不可欠である。家族をサポートする仕組みを。
- ・地域移行のイメージが入院中の方にとっては、漠然としているのではないか。

引き続き地域移行部会では、精神科病院に入院している方の退院促進に向けた支援のあり方や課題を検討していきます。次回も、ぜひ皆様のご参加をお待ちしております。部会で取り上げたいテーマや事例などありましたら、下記までご連絡ください。

